

## 日田商工会議所 隈を元気にして委員会 議事録

1. 日時 令和8年1月26日(月) 14時30分～15時30分

2. 場所 日田商工会議所

3. 出席者

(会 頭) 瀬戸 亨一郎

(委員長) 河津 奈津子

(担当副会頭) 小ヶ内 聡行

(副委員長) 古田 嘉寿美

(専務理事) 樋口 恒成

(委 員) 諫山 吉晴、伊藤 哲司、竹井 信之、梶原 智敏、安田 徳章、岡野 涼子、  
高倉 貴子、竹内 一晃、中西 浩、諫山 安雄、高嶋 圭一郎、大塚 智

(事務局) 大石、中島、別府、栞野

4. 議事経過

1) 委員長挨拶(河津委員長)

- ・ 昨年7月に日田市観光協会会長に就任した旨の自己紹介があった。
- ・ 自身の経験として、国道212号線沿いの元ドライブインが3年間空き店舗だった際、街づくりの会で市と県の補助金を活用して10年前に飲食店を立ち上げ、現在は「おすそわけ野菜のレストラン松原」として運営している事例を紹介。「県境の町に賑わいを取り戻したい」という思いで活動してきた経緯が共有された。
- ・ 本委員会について、「私たちから見ると元気があるように見えていた隈町だが、今後どのように賑わいを維持・発展させていくかが観光協会としても最大のポイントである」と述べ、商工会議所からのテーマ提起を受けて委員長を引き受けた旨の挨拶があった。

2) 議題

①副委員長の選任について

- ・ 河津委員長より、自身が隈町在住ではなく隈での仕事もしていないため、「誰よりも隈を愛し、こうしたいという強い思いがある方」に副委員長をお願いしたいと会場に諮り、河津委員長より古田委員を指名し、全会一致で承認された。

②今後の委員会事業について

- ・ 河津委員長より、本日は初回であり白紙の状態から議論を始めたいとして、各委員の自己紹介と共に「隈が好きか」「元気とはどういう定義か」について意見交換を行いたい旨の発言があった。

【各委員からの現状認識と意見】

- ・ 伊藤委員： 以前から、隈町のイベントにも参加しており、仕事上でもお世話になっている。もっと元気を取り戻して人がやってくる街にしたいと発言した。

- **梶原委員**：本店が中本町にあり隈に近いが、朝はインバウンド客がキャリーバッグを持って歩いている光景も見られる。昼間の賑わいも取り入れたいと述べた。
- **安田委員**：「元気とは賑わいである」と定義。豆田町との連携や、観光客だけでなく地元の学生や住民が日常的に使えるような街づくりが必要であると提案した。
- **岡野委員**：隈町エリアで育ち、自分の大好きなエリアであると発言。「元気にする」とは商売人が増え、店を持つ人が増えることだと定義した。
- **諫山安雄委員**：個人的には亀山公園をもっと元気にしてほしい、公園を明るく整備したいとの要望を出した。
- **高嶋委員**：昔の隈と今は変わってしまったが、去年、J Cがイベントを開催し、かなりの賑わいを見せていた。これからも何かイベントを開催して人通りが戻ってほしいと述べた。
- **古田副委員長**：平日の人通りが少ない現状を指摘。昨年のイベント「隈の灯まつり」の際は人が多かったことに触れ、単発ではなく定期的なイベントで家族連れが来るような新しい流れを作りたいと述べた。
- **中西委員**：スナックなど夜の店が多いが、店の特徴がそれぞれ違う点に魅力がある。店が1軒より2軒、3軒と増えることが元気に繋がると発言した。
- **竹内委員**：昔は住んでいたこともあり、隈は素晴らしい町である。今以上にもっと明るくなればと思う。
- **高倉委員**：20年前に隈町の専念寺で「おひなまつり」を始めた際、年間100セット以上の雛人形が飾られ多くの客が訪れた実績を紹介。昼間の散策の楽しさを強調し、かつて文具店でスタンプやカードを集めたような「子供が楽しめる要素」が必要であると提案した。
- **大塚委員**：隈町は日田を代表する魅力あふれる街だが、コロナ以降、人の出方が変わり寂しくなった。新しいことを考え、観光客に来てもらえる手伝いをしたいと述べた。
- **竹井委員**：25年前に青年会議所やサッポロビールの支援等を受けて建設した「水上ステージ」について、「水の情報発信基地」としての原点に立ち返り、再活用すべきとの意見を出した。
- **諫山吉晴委員**：小学校時代は近所に同級生が11人いたが、現在は子供がおらず高齢者ばかりである現状（限界集落化）や、特にスナック等の飲食業が苦境にある（客が増えず、仕入れや経費が高騰している）現状を報告。顧客から「なぜ誰も歩いていないのか」と問われる現状に対し、人気アニメ『進撃の巨人』のアプリを活用したARスポット巡りなどで若者を誘客している取り組みを紹介した。
- **小ヶ内副会頭**：幼少期のデパート（岩田屋）や祇園祭の賑わいの記憶と比較し、現在は屋形船（遊船）や鶴匠・船頭が激減していることへの強い危機感を示した。「屋形船という地域の重要な文化・風景を残すための取り組みが必要ではないか」と提起した。
- **事務局**：小売業者へのヒアリング結果として、以下の声を報告した。  
地元客中心で、豆田町に来るインバウンド客が隈までは来ない、また、土産物需要が個人

消費にとどまり、利益につながりにくい

- ・日田市内の商工業者数の減少について具体的な数値を報告した。
  - 平成18年の3,660件から令和3年には2,982件へと約680件減少している。
  - 直近の平成28年からの推移だけでも220件減少しており、減少幅が拡大傾向にある。

#### 【具体的な活性化策に関する議論：イベントから日常へ】

- ・高倉委員・古田副委員長より、昨年10月に開催された「隈の灯まつり」について報告があった。
  - 14時から20時の開催で道路を通行止めにして実施。
  - 予想を遥かに超える来場者があり、地元住民（特に高齢者）が大変喜んだ。
  - 普段静かな通りが「化ける」ポテンシャルがあることが確認された。
- ・これを受け河津委員長は、「隈には底力がある」と評価しつつ、単発のイベントで終わらせるのではなく、日常的に人を呼ぶ手法（「毎日がお祭りのようなイメージ」）を考えるべきと指摘。以下の具体的なアイデアや方向性が示された。
  1. **景観の統一感** 空き店舗であっても、統一した暖簾（のれん）や花壇を設置し、「隈らしさ」を演出して観光客にアピールする案。
  2. **水辺資源の活用と安全対策** 現在は水路に蓋がされ水を感じにくい現状があるとし、安全対策（ライフジャケット等）を講じた上で、川に近づける親水空間（階段状の護岸など）の整備や、規制の壁を越えた水辺活用を検討したいとの意向。
  3. **鶺鴒文化の継承** 河津委員長より、鶺鴒匠が減少（現在2名）しており、自力での存続が困難であるため、市や行政を含めた支援や継承の仕組み作り（公的な手入れ）が急務であるとの課題提起。
  4. **健康・ウォーキング需要の取り込み** 高倉委員・古田副委員長より、現在も早朝や夕方に多くの市民がジョギング・ウォーキングをしていることに着目し、「ここから〇km」といった距離表示の設置や、景観整備を行うことで、市民の健康増進と観光をリンクさせるアイデア。
  5. **ペットツーリズムの可能性** 河津委員長より、犬連れの宿泊需要が高く、専用の宿は予約が取れない状況にあることから、ペットと散策できる環境整備も有効であるとの見解。

### 3) 閉会

- ・事務局より、今後は月1回程度のペースで委員会を開催する予定である旨が伝えられた。
- ・瀬戸会頭より総括として、「隈町に関しては課題も多いが、失敗を恐れずに提案し、行動に移すことが一番大事である。ここ10年、20年の遅れを取り戻すための刺激を与えてほしい」との激励があった。
- ・次回日程は委員長・副委員長と調整の上、連絡することとし、閉会した。

以上